

## 四谷の

# 千枚田だより



第 149 号

## 連谷地区新年祝賀会

一月三日、公民館・コミニティは恒例の新年祝賀会を開催しました。その概要をお知らせします。

### 連谷公民館長 原田英寿

昨年は、連谷小学校の閉校に伴った各種行事のご協力ありがとうございました。いよいよ、本年をもち閉校という時に、この連谷学区をどのようにしていくかを定める必要性に駆られております。現在、日本の人口は減少の一途を辿っており、現在、過疎地と言われている所は消滅してしまうと言われております。この、連谷地区も他の地区同様、今のままでは消滅の危機に瀕してしまっているのではないかと考えられますが、只、この地区には日本の原風景ともいわれる千枚田がございます。この、千枚田を地域の核と位置づけることによつて何とか、消滅の危機は脱するという考え方もあるのではないかと考えておりますし、ここ、一、二年の間に方向性を定め、それによつて如何になつていくか、連谷地区の将来について皆さんとできるこ

とはやつて、皆で連谷地区の将来について考えて行く年にしたいと思っております。

### 新城市長 穂積亮次様

昨年は、千枚田サミット開催十周年記念シンポジウムという大きな行事を開催なされました。サミット開催は鳳来町最後のビックイイベントであり、ちょうどその年には愛地球博が開かれ、「地球の叡智」というタイトルで初めて地球の環境を取り上げた愛知万博が開催され、それにも四谷の千枚田が大きく注目され、それ以降も愛知県のあらゆる行事、あるいは、愛知県の自然環境を紹介する時には必ず四谷の千枚田の写真が使われるようになりました。只今、原田公民館長さんのお話にもありましたように、いよいよ小学校の跡地の問題も真剣に考えなければならぬ時を迎えております。子供たちの教育環境を優先した統合を進めてきましたが、学校跡地をどのようにしてゆくか、これもまた、地域の皆さん、教育委員会、そして行政ともども考えていかなければなりません。

また、英国 BBC のワイルドジャパンでは自然豊かな素晴らしい光

景が映っていましたし、映画「あん」では四谷の千枚田で樹木希林さんも撮影に訪れ、その風景が切り取られておりました。そういうことで、昨年はいろいろな意味で四谷の千枚田にとつてサミット開催十年という大きな節目の中で新しいステップを迎えるような、そんな年であったような気がしました。新東名も二月十三日に開通をし、それに伴つて観光・交流、あるいは住環境を整備してゆく、そういう中、四谷の千枚田ひいては川売の梅、東泉桜、こういうものを大きなスポットとして市民の皆さんが盛り上げて頂いてこの地域の新しい顔として育てていかなければと強く思っております。何れにしましても、毎年、このような連谷地区の新年祝賀会にお呼び頂いてわいわいガヤガヤ、今年の成果、抱負をお聞かせいただくことに感謝を感じております。

### 愛知県議会議員 峰野 修様

昨年、紅白も終わり、何となくテレビを見ていましたらワイルドジャパンで四谷の千枚田の田んぼの畔に小山さんが何やら物思いに耽っている姿が映っていました。英国国营放送局が一年をかけて撮影したその中で、まさに日本全体の中で四谷の千枚田が紹介されたという

いただきました。愛知県も新たな観光局ができました。愛知の自然を紹介するその中にも必ず四谷の千枚田が紹介されております。これから新東名が出来ますと我々の気の付かない魅力がこの地域がもっていることではないかと思っておりますので、今一度皆様と一緒にこの地域をどのように売り出していくのか、その可能性を示した考えが必要であるかと思っております。地域にとつて学校の閉校は非常に寂しい事でありますが、これも踏み越えていかなければならない一つのステップであるうと思っております。

### 新城市議会議員 柴田賢治郎様

地元議員として、三人の子持ちとして頑張ります。なんなりお言いつけ下さい。乾杯



ありがとう 千枚田

## 連谷小学校閉校式について

地域の中核として唯一の拠り所であった連谷小学校が開校百四十四年の歴史の幕を下ろすこととなりました。

### 連谷小学校閉校記念式典

日時 平成二十八年二月七日(日)

午前十時～十一時

場所 連谷小学校体育館

### 式次第

- 一 開会のことば
- 二 国歌斉唱
- 三 実行委員長挨拶
- 四 来賓あいさつ
- 五 来賓紹介
- 六 「連谷小学校の思い出」
- 七 校長挨拶
- 八 校歌斉唱
- 九 閉会のことば

鑑みれば、全校生徒百八十人有余、ひとクラス平均三十人の児童が各地区通学団を結成、にぎやかな通学風景がみられた。

三学期を終え、全校生徒三名をもって幕を閉じる。時勢といえ、それまでであるが、もう、子供(児童)の声が聞こえてこないことは淋しいかぎりである。

## おかげで 安気になったぞん

平成九年、棚田の百姓は自力では棚田保全、先祖の遺産継承に限界を感じ、行政支援(受け皿)を視野に念願の鞍掛山麓千枚田保存会を発足した。その一環としてふるさと水と土ふれあい事業(国民の税金二億八百万円)を採択、作業道を始めふれあい広場、水車、ボットリ、あずまや等々の施設整備が行われた。

百姓は作業道が整備され軽トラでスイスイ、農作業効率が増え、軽減され、鼻歌気分だ。



国民は風光明媚な四谷の千枚田に血税を投資、心のふるさと、癒しの場として年間二万人以上が訪れるまでに至った。都市近郊から訪れる大勢の人々は、これも、棚田の保全に邁進する百姓のおかげと、感謝の念を抱いていてくれると勝手に推察。収穫後の土手や畔草刈り、田起こし等々、景観・環境保全に各々が黙々と頑張っている。



このたび、市農業課・地域整備課により十八号台風(H26)による作業道の崩壊危険箇所、危険防止柵(手すり)、作業道陥没箇所等の補修をしていただきました。「手すり」などは訪れる人々の安全対策で、百姓にと

っては耕運機や農作業機械の出し入れに無用の長物であるが、保存会、行政は訪れる人々に怪我でもされたら・・・と常に心配りをしている事をお忘れなく。

### 三遠南信サミット

二月十五日、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT など会場に午後一時から第二十三回三遠南信サミット「東三河が地域住民、大学、研究機関、経済界、及び行政が一同に会し、「県境連携の蓄積を活かした三遠南進地域の創生」とともに生きる未来を目指して」をテーマに全体会、分科会及び報告会、連携について開催されます。また、住民セッション(午前十時から)も合わせて開催されます。分科会は①「道」②「技」③「風土」④「山・住」の四分科会に分かれ提案、議論がなされるが(舞)は第一分科会「道」で住民側の発言者として新東名開通・新城 IC 開所に伴い、奥三河の玄関口として未来像、展望などを提案する。

行 平成二十八年一月二十日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文責 小山舜二